

令和2年度 第3回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会

議 事 録

日 時：令和2年12月4日（金） 午前10時～11時

会 場：本郷新記念札幌彫刻美術館 本館研修室

出席委員：中田三喜男（宮の森まちづくりセンター所長）、國松明日香（彫刻家）、竹本和子（札幌市立大倉山小学校PTA副会長）、寺嶋弘道（本郷新記念札幌彫刻美術館館長）以上4名

所 管 課：堀井一生（札幌市市民文化局文化部文化振興課振興係長、委員代理としても出席）、平将士（同文化振興課振興係事務職員）

事 務 局：岩崎直人（本郷新記念札幌彫刻美術館業務係長）、山下秀幸（同業務係事務職員）、山田のぞみ（同業務係事務職員）

- 次 第：1 開会
2 議事
（1）令和2年度事業 経過報告
（2）令和3年度事業の企画状況
（3）意見交換
（4）その他
3 閉会

当日配付資料：

- ・令和2年度第3回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会次第
- ・令和2年度本郷新記念札幌彫刻美術館事業経過報告（2020年9月～11月）
- ・令和3年度事業企画状況
- ・令和2年度開催事業チラシ
（3種：「全部展」「アート・フェア」「雪像彫刻展」）

議事内容：

（1）令和3年度事業の企画状況
事務局より配付資料に基づき、11月30日現在の令和2年度事業の経過報告を行った。

（2）令和2年度事業経過報告
事務局より配付資料に基づき、令和3年度事業計画について、企画錬成、進捗状況について報告を行った。

(3) 意見交換

國松：舟越桂展に人が余り入らなかったようだ。好企画だったので意外である。このような優れた彫刻家の企画展をまた行って欲しい。また、無料化月間も手伝って「五輪大橋と花束」展（記念館）はたくさんの方が来た。美術館の存在価値を改めて認識した。

吉田：コロナ禍での美術館運営、なかでもハロー！ミュージアムは、少人数での受け入れのために分散開催（同じ学校がクラスを分けるなどして複数日に渡って来館）されているようで、工夫と労力が推し量られる。

堀井：市では野外彫刻作品の点検、補修に力点を置いている。例えば、札駅南口にある本郷新作《牧歌の像》は5体の内3体を撤収し、台座を修復中である。

寺嶋：コロナ禍で記録した数字はその分析が難しいところではあるが、地道な活動を続けていくのが美術館運営の基本ととらえている。

國松：再生された《鳥の碑》、設置場所も良くなったと思う。高校、とりわけ西高との連携にも力を入れてもらいたい。次年度事業については、地元で根差した「宮の森にある美術」展が内容の濃い展覧会になるであろうと想像が膨らみ、期待が持てる企画である。

吉田：地域にスポットが当たる企画によって、より多くの住民に足を運んでもらうきっかけになればと思う。2月中旬にホットキャンドルプロジェクトを地域では行っているのだから、これと雪像彫刻展の時期が重ねられたらよいのだが。

竹本：雪像彫刻展は雪像制作期間も魅力的である。この時期の集客も高められたらよりよい。

(4) その他

①次回開催日時は3月12日（金）午前10時～11時を予定。